

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第3号

令和5年5月13日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

校長 森 勝義

こいのぼり集会 幼稚部

5月6日、幼稚部で「こいのぼり集会」が開かれました。全員で歌を歌った後、代表の子どもたちがそれぞれのこいのぼりをあげました。真鯉と緋鯉が逆になってしまったトラブルはありましたが、保護者の方々も参観していただきました。子どもたちがゆり組、きく組で作成した自分の手形を付けたこいのぼりも、校舎の屋根より高く揚げました。そして最後に記念写真を撮って終わりました。



4年 国語単元「白いぼうし」感想文

「白いぼうし」

織田登理

ぼくは、「白いぼうし」を読んで、ふしぎだと思ったことが二つあります。一つ目は、なぜ女の子が消えてしまったのかということです。二つ目は、なぜ松井さんに白いちょうの声が聞こえたのかということです。

ぼくは、初めてこの物語を読んだときは、場面が想像できなくて、女の子について分からないことだらけでした。読んでいくうちに、女の子が白いちょうだということや、男の子からにげていることや、なかまのちょうのところへもどったので松井さんのもとから消えたのだと思うようになりました。なぜ、松井さんに白いちょうの声が聞こえたのかというと、松井さんがちょうをにがしてあげたから、そのよろこびが松井さんにとどいたのだと思います。

この物語は、白いちょうをにがしてしまったかわりに男の子が悲しがらないように、夏みかんをおいてあげた松井さんのやさしさや、白いちょうがなかまに会えたことが書かれているので、ぼくは、「白いぼうし」が好きになりました。そして、もぎたての夏みかんを食べてみたいと思いました。

わたしは、「白いぼうし」を読んで、ドキドキしました。白いぼうしの中に入っていたちょうがにげてしまいました。どこに行ったのでしょうか。また、どうして松井さんに小さな声が聞こえたのか、ふしぎでした。

わたしは、松井さんがにがしたちょうが、他のちょうといっしょになれて「よかったね。」と言っているのではないかと思いました。きっと、ちょうはなかまに会えたのがうれしかったのです。そして、ちょうは、松井さんに助けてくれたお礼を言いたかったのだと思いました。

6年「帰り道」を読んで

吉原 結奏

私は物語をきっかけにして、「言葉」について考えてみました。1 場面の視点は「律」です。律はうまく言葉にできなかったり、思っていることが言えません。律はその「こんな」をうまく言葉にできたらな、と思っています。それに対して2 場面では、周也は「どうして会話のキャッチボールができないのか、ぼくの言葉は軽すぎる」と言っています。周也はどうしてもっと相手のことを考えられないのか、となやんでいます。私はこの物語をきっかけに、言葉について考えてみました。周也のように言いすぎることによって、自分の考えとは違う印象を与えてしまうことがあると気づきました。ごかいをうまないために、自分の事だけではなく相手の言葉を大切にして、うまく相手と会話のキャッチボールをなげ合うことが大切だと思いました。

泉山 湊紀

ぼくは、周也が「どっちも好きっていうのは、どっちも好きじゃないのと一緒じゃないの。」といった事が印象に残りました。自分だったら友達にそんなにつっこんで言えないので、びっくりしました。また、周也が律の事が心配で話しつづけるのはまた、自分にはできないことでした。自分ならどうやって話しかけたらいいのかわからないのに、周也はどんどん律にもちかけました。自分がこういう場面になったらことがないので、他の人よりかは自分だけハラハラしたと思います。もっといえば、律は周也に話しかけられているのに、無言なのはちょっとひやひやしました。

ウォルズ 優人

視点を変えて書かれた「1」と「2」という構成によって、二人の友達の心情のちがいはっきりと比べられる、という効果があります。例えば、律はすぐに立ち止まって、思っていることがうまく言えません。反対に、周也は速いテンポでベラベラ話します。同じ出来事をそれぞれのちがう視点から見て、まるでちがう出来事のように思わせるように、二人のちがいを強調しています。

鳥居 紗名

私はこの物語を読んで、ちょっとした思わぬ一言でも簡単に人を傷つけてしまうのだな、と思いました。例えば、先日現地校のカフェテリアで、二人のアメリカ人の友達と三人でお昼ご飯を食べていました。とつぜん、友達の一人が不機嫌になってほかの子と座りだしたり、昼休みにはしゃべってくれたりもしませんでした。けれどもこの物語を読んで、ひょっとしたら私と友達が、機嫌を悪くした友達になにか気付かずに傷つくことを言ってしまったのかもしれない、と思いました。なので、自分ではなにも思っていなくても相手には傷ついてしまうことがあるので、これからはもう少し気を付けたいと思いました。

- ・ 5月13日 図書室は閉室となります。本の貸出・返却もありません。
- ・ 5月20日 避難訓練（不審者対応）：第2回運営委員会